ED-010

ECO ACTION 21 環境経営レポート

期間:2019年6月 ~ 2020年5月



作成日:2020年8月31日

日本ゼトック株式会社

目 次

1.	組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2.	対象範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3.	環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4.	環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5.	環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
6.	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
7.	次年度の環境経営目標及び環境経営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
8.	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	21
9.	その他の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
10.	代表者による全体の評価と見直し・指示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社 (NIPPON ZETTOC CO.,LTD)

代表取締役会長兼CEO 牧田 裕樹

代表取締役社長兼 COO 神保 貞夫

(2) 所 在 地

本社	東京都新宿区西新宿 1 丁目 26 番 2 号 新宿野村ビル 12F TEL: 03-5323-2020(代表) FAX: 03-5323-3010(代表)
相模原事業所	神奈川県相模原市緑区大山町1番5号 TEL:042-775-8700(代表) FAX:042-775-7012(代表)
大阪営業所	大阪府大阪市中央区安土町3丁目2番4号 JUST 本町ビル 7F TEL: 06-6262-6881 (代表) FAX: 06-6262-6601 (代表)
新生富山事業所	富山県中新川郡上市町三日市 22 番地 TEL: 076-472-0380(代表) FAX: 076-472-0339(代表)

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者:江尻 茂之

(4) 事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

(5) 事 業 規 模

設 立 1954年(昭和29年)2月12日

資 本 金 9,600 万円

売 上 高 10,643 百万円 (79期/2019年6月1日~2020年5月31日)

<u> </u>	-,	
	従業員数(人)	延床面積(m2)
本社	68	572.28
相模原事業所	338	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	22	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む (2020年5月31日時点)

2. 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

(2) レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間:2019年6月1日~2020年5月31日

レポート発行日: 2020年8月31日

3. 環境経営方針

環境経営方針

くミッション> 私たちは、人々の幸せと健やかなる未来を創造し、 世界中に笑顔を届けてまいります。

【環境経営方針】

当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスを踏まえ、上記の当社ミッショ ンを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを書います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

- ◆環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
- ・電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます ・産業消費量の削減を中心に、高葉物排出量削減に取り組みます ・上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組みます ・当社で使用する化学物質の管理を徹底します

- ◆当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。

2020年8月7日 改定

日本ゼトック株式会社 代表取締役社長

4. 環境経営目標 79期

4. 1 本社 (79期)

	項目	76期(基準年度)実績値	79 期(中期目標)目標値
	AH .	10/37 (22年12) / 沙陵區	
	CO2 排出量削減(t)	20.6	13.4~15.5
1	(基準年比)	-	65~75%
1	電力使用量削減(kWh)	39,150	25,448~29,363
	(基準年比)	_	65~75%
2	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減(kg)	2,066	2,004
	(基準年比)	_	▲3%
9	コピー用紙使用量削減(枚)	191,700	249,210
3	(基準年比)	_	+30%
4	グリーン購入率アップ (%)	75.7	68.1~83.3
4	(基準年比)	_	90~110%

※CO2 排出量係数:電気・0.000474t/kWh (調整後)、ガソリン・0.00232t/L

※78 期から、電力使用量、CO2 排出量は維持目標(基準年±5%)に変更し、グリーン購入も維持目標(±10%)に変更し ました。

※78 期途中より照明が LED となり、大幅な削減が成されましたので、79 期の目標は当初目標から上方修正しました。一方 コピー用紙は、年々内部製作物が多くなる傾向ですので、79期の目標は当初目標から下方修正しました。

4. 2 相模原事業所 (79期)

	項目	76期(基準年度)実績値	79期(中期目標)目標値
	CO2 排出量削減(t)	2,818	(2,677)
	(原単位:t)	3.156×10 ⁵	2.999×10 ⁻⁵
	(基準年比)	_	▲ 5%
	電力使用量削減(kWh)	4,916,157	(4,670,349)
	(原単位:kWh)	0.055	0.052
,	(基準年比)	_	▲ 5%
1	ガス使用量削減(m3)	219,504	(208,529)
	(原単位:m3)	0.003	0.002
	(基準年比)	_	▲ 5%
	ガソリン使用量削減(L)	1,147	(1,090)
	(原単位:L)	1.285×10 ⁻⁵	1.221×10 ⁵
	(基準年比)	_	▲ 5%
	廃棄汚泥量削減(kg)	606,320	(576,004)
	(原単位:kg)	6.791×10 ⁻³	6.452×10 ⁻³
	(基準年比)	_	▲ 5%
2	廃棄プラスチック量削減(kg)	100,204	(95,194)
	(原単位 : kg)	1.122×10 ⁻³	1.066×10 ⁻³
	(基準年比)	_	▲ 5%
	下水道排水削減(m3)	48,221	(45,810)
3	(原単位:m3)	5.401×10 ⁻⁴	5.131×10 ⁻⁴
	(基準年比)	_	▲ 5%
4	化学物質の管理:PRTR 制度対象物質(kg)	F: 11,730 POE: 0 NaDS: 62,670	対象物質の 在庫管理
_	コピー用紙使用量削減(枚)	897,500	807,750
5	(基準年比)	_	▲ 10%
	グリーン購入率アップ (%)	16.0	16.8
6	(基準年比)	_	+5%
7	製品開発において環境に配慮した施策を行う	_	77~79期で合計3件実施する
		ガフ・0.00991+/m9 ガソリン・0	_

[※]CO2 排出量係数:電気・0.000474t/kWh (調整後)、ガス・0.00221t/m3、ガソリン・0.00232t/L

^{※79} 期も増産が見込まれたため、CO2 排出量、エネルギー使用量、廃棄物量、排水量の削減は、原単位(製品 1 本当たりに換算)で評価しました。(基準年比)は、原単位があるものは原単位で、原単位がないものは実測値で比較しています。 ※化学物質の管理 $/\mathbf{F}$: フッ素関連、 \mathbf{POE} : ポリオキシエーテル、 \mathbf{NaDS} : ドデシル硫酸ナトリウム

4. 3 大阪営業所 (79期)

	項目	76期(基準年度)実績値	79期(中期目標)目標値
	CO2 排出量削減(t)	3.3	3.1~3.5
1	(基準年比)	_	95~105%
1	電力使用量削減(kWh)	6,687	6,353~7,021
	(基準年比)	_	95~105%
	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減(kg)	371	360
2	(基準年比)	_	▲ 3%
	コピー用紙使用量削減(枚)	18,833	18,268
3	(基準年比)	_	▲ 3%
	グリーン購入率アップ (%)	35.2	31.7~38.7
4	(基準年比)	_	90~110%

※CO2 排出量係数:電気・0.000496t/kWh(調整後)

※78 期から、電力使用量、CO2 排出量は維持目標(基準年 ± 5 %)に変更し、グリーン購入も維持目標(± 10 %)に変更しました。

4. 4 新生富山事業所(79期)

	項目	76期(基準年度)実績値	79期(中期目標)目標値
	CO2 排出量の把握(t)	-	毎月、CO2排出量を測定する
	電力使用量の把握(kWh)	-	毎月、電力使用量を測定
1	LPG使用量の把握(m3)	-	毎月、LPG 使用量を測定
	ガソリン使用量の把握 (L)	-	毎月、ガソリン使用量を測定
	A 重油使用量の把握(L)	1	毎月、A重油使用量を測定
2	廃プラスチック類の量の把握(kg)	_	毎月、廃プラスチック類の量を測 定
3	上水使用量の把握 (m3)	-	毎月、上水使用量を測定
4	化学物質使用量の把握:PRTR制度対象物質(kg)	_	毎月、化学物質 (PRTR 制度対象 物質) の使用量を測定
5	コピー用紙使用量の把握(枚)	-	毎月、コピー用紙使用量を測定

%CO2 排出量係数:電気・0.000624t/kWh(調整後)、 $LPG \cdot 0.00655t/m3$ 、ガソリン・0.00232t/L、A 重油・0.00271t/L

5. 環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容

5. 1 本社 (79期)

		項目	項目 環境経営計画		
			不在時と休憩時間の可能な限りの徹底した消灯実施	0	
			使っていない電気機器の電源オフ実施	0	
1	CO2 排出量	電力使用量削減	残業ルール(午後9時までに消灯・退室)の厳守	0	
		CO2 排出量削減	周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	0	
			社内テレビなど、省エネモードを基本とする	0	
			排出量の現状把握と管理	Δ	
	一般廃棄物		使用済封筒・可能な裏紙の再利用	0	
		一般ごみ・紙類の削減	印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	0	
		段ボールの削減 古新聞の削減	ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める	Δ	
2			工場経由で、ダンボール等の有効活用できる方法を検 討する	0	
		ペットボトルの削減	ゴミ削減 (eco)の意識の徹底の為の施策を実施	Δ	
			使い捨て食器の削減(給水器の据付け紙コップ使用を 最小限に留める/自箸などの特参)	×	
			使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	Δ	
	粉 系化工具		印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	0	
3	物質使用量	コピー用紙使用量削減	両面、集約等の機能を活用	0	
			印刷物を必ず回収する	0	
			現状の把握と管理	0	
4	グリーン購入	グリーン購入率アップ	グリーン購入の必要性の周知・徹底を図る	0	
			グリーン購入法適用商品の徹底的な購入	Δ	

②: 実績に繋がる取組ができた、○: 取組ができた、△: 取組が不十分だった、×: 取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 2 相模原事業所 (79期)

		項目	環境経営計画	取組内容
			不在時と休憩時間の消灯実施	0
		使っていない電気機器の電源オフ実施 電力使用量削減		0
1	CO2 排出量	ガス使用量削減	夏季冬季のエアコン設定温度管理	0
		ガソリン使用量削減	倉庫エリア LED 照明導入	0
			社有車のアイドリングストップ	0
		汚泥(充填不良・廃バルク)の	充填不良の低減・改善	0
		削減	バルクロットアウトの低減・改善	Δ
2	廃棄物		再資源化の検討	\triangle
		廃プラスチック類の削減	不用品廃棄・削減	0
			廃プラスチック類のコンパクト化	Δ
3	排水量	下水道排水の削減	洗浄方法の改善	0
3		//\Delff/\v\v\/Pilipk	節水の実施	0
4	化学物質の管理	化学物質の管理 (PRTR 制度対象物質)	対象化学物質の適切使用量の管理	0
			印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	0
5	物質使用量	コピー用紙の削減	両面・集約等の機能を活用	0
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	0
6	グリーン購入	グリーン購入のアップ	グリーン購入の必要性を周知・徹底を図る	0
ь	クリーン購入	クリーン _開 八007 ツフ	グリーン購入法適用商品の優先的な購入	0
			環境に配慮した製品の開発を行う	0
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	0
7	製品開発において	環境に配慮した施策を行う	環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	0
			環境に配慮した製品仕様を検討する	0
			SDGs に関する勉強会に参加する	0

^{◎:} 実績に繋がる取組ができた、○: 取組ができた、△: 取組が不十分だった、×: 取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 3 大阪営業所 (79期)

		項目	環境経営計画	取組内容
		電力使用量削減 CO2 排出量削減	不在時と休憩時間の消灯実施	0
1	CO2 排出量		使っていない電気機器の電源オフ実施	0
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	0
			排出量の現状と把握	0
	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減 機密書類溶解廃棄の削減 シュレッダーの削減 ペットボトルの削減	使用済み封筒等再利用徹底	0
2			印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める	0
			ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	0
			印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	0
3	物質使用量	っぴ…田紅佐田豊均は	両面・集約等の機能を活用	0
3		7質使用量 コピー用紙使用量削減	ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	0
			電子ファイル化推進	Δ
4	がリー、4葉カ	ガリー・2世末家アップ	グリーン購入の必要性を周知・徹底を図る	\triangle
4	グリーン購入	グリーン購入率アップ	グリーン購入法適用商品の優先的な購入	Δ

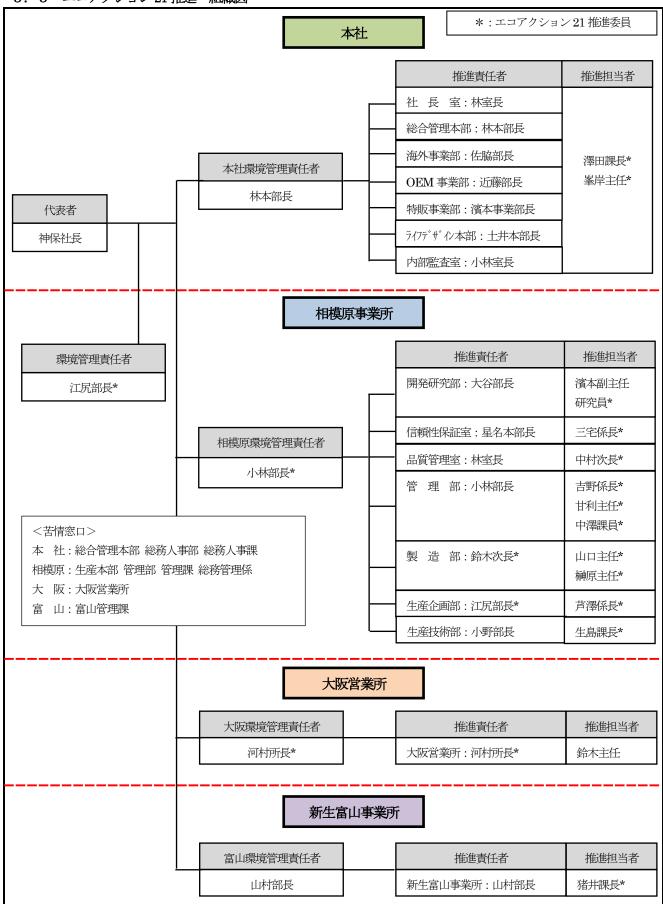
^{◎:} 実績に繋がる取組ができた、○: 取組ができた、 \triangle : 取組が不十分だった、 \times : 取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 4 新生富山事業所(79期)

	項目		項目	
		電力使用量を把握する	不在時と休憩時間の消灯実施	0
1	CO2 排出量	LPG 使用量を把握する	使っていない電気機器の電源オフ実施	0
1	CO2 好山里	A重油使用量を把握する	夏季冬季のエアコン設定温度管理	0
			社用車のアイドリングストップ	0
2	廃棄物	廃プラスチック類の量を把握 する	再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測 定し、記録する	©
3	上水使用量	上水使用量を把握する	節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し、記録する	0
4	化学物質の使用量を把握する (PRTR 制度対象物質)		PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、 記録する	0
			印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	0
5	物質使用量 コピー用紙の使用量 る	コピー用紙の使用量を把握する	両面・集約等の機能を活用する	0
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	0

^{◎:} 実績に繋がる取組ができた、○: 取組ができた、△: 取組が不十分だった、×: 取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 5 エコアクション21推進 組織図



6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

6. 1 本社 (79期)

	項目	76 期 (基準年度) 実績値	77 期 実績値	78 期 実績値	79 期 (中期目標) 目標値	79 期 実績値	
	CO2 排出量 削減(t)	20.6	20.6	13.3	13.4~15.5	13.2	
	(基準年比)	_	±0	▲35.6%	65~75%	▲36.0%	
1	電力使用量 削減(kWh)	39,150	38,300	27,980	25,448~29,363	24,194	
	(基準年比)	_	▲2.2%	▲28.5%	65~75%	▲38.2%	
	今期後半は、コロナ禍で時差出勤を開始。実施していた昼食時等の一斉電気消灯も継続が困難になり、削減への活動には困難な状況もありました。しかし電気使用量は、基準となる76期と比較して61.8%となっている。不在室の消灯実施と残業ルールの徹底、社内TV・PCなどの省エネモードへの努力によるものと考えます。これに連動して、二酸化炭素排出量は、76期と比較して64.0%となっています。引き続き使用量の低減に努めていきます。						
	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減(kg)	2,067	2,249	1,801	2,004	2,031	
2	(基準年比)	_	+8.8%	▲ 12.9%	▲3.0%	▲ 1.7%	
	最終処分廃棄物は、基準となる 76 期と比較すると 1.7%削減となりました。ゴミ削減に対する意識の徹底を行ないましたが、本社フロアー内のレイアウト変更を 2019 年、2020 年に2回行い、その際に発生したゴミの影響もあり目標値に達成することが出来なかったと考えます。						
	コピー用紙使用 量削減(枚)	191,700	232,150	239,000	249,210	206,500	
3	(基準年比)	_	+21.1%	+24.7%	+30%	+7.7%	
	本社の従業員数が、基準となる 76 期より約 30%増加しており、また社内案内や名刺等の内製化で使用量の増加は想定内と考えていました。しかし、日頃から印刷物は必要最小限とし、両面及び集約機能の活用、印刷物の回収を習慣化しました。また、コロナ禍での在宅業務で使用量が減少したことによって、今期は 76 期と比較すると 7.7%増にとどめることができました。						
	グリーン購入率 アップ (%)	75.7	66.8	58.8%	68.1~83.3	45.1	
4	(基準年比)	_	▲ 11.8%	▲ 16.9%	90~110%	▲ 40.4%	
1							

今期は基準となる 76 期と比較し 40.4%減となりました。商品購入にあたり、グリーン商品の有無を確認し、ほぼ 100%に近い割合で選び購入するなどの活動は徹底してきました。しかし経費に限りもある中、グリーン商品だけを購入するのは困難なこともあり、そのバランスを考慮して購入することを実施した結果です。

※CO2 排出量係数:電気・0.000474t/kWh (調整後)、ガソリン・0.00232t/L

6. 2 相模原事業所 (79期)

	項目	76 期 (基準年度) 実績値	77 期 実績値	78 期 実績値	79 期 (中期目標) 目標値	79 期 実績値
	CO2 排出量 削減(t)	2,818	2,938	2,975	(2,677)	(3,027)
	(原単位 : t)	3.156×10^{-5}	_	_	2.999×10^{-5}	_
	(基準年比)	_	▲3.0%	▲ 5.7%	▲ 5%	▲ 25.7%
	電力使用量 削減(kWh)	4,916,157	5,065,256	5,006,909	(4,670,349)	(5,229,841)
	(原単位 : kWh)	0.055	_	_	0.052	_
	(基準年比)	_	▲ 4.0%	▲8.6%	▲ 5%	▲ 10.9%
	ガス使用量 削減(m3)	219,504	242,462	271,886	(208,529)	(247,496)
	(原単位:m3)	0.003	_	_	0.002	_
1	(基準年比)	_	+2.9%	+11.1%	▲ 5%	▲33.3%
	ガソリン使用量 削減(L)	1,147	465	383	(1,090)	(524)
	(原単位 : L)	1.285×10^{-5}	_	_	1.221×10^{-5}	_
	(基準年比)	_	▲ 62.2%	▲ 70.0%	▲ 5%	▲ 25.7%

電気使用量は前期より増加しています。また基準となる 76 期との比較でも増加となっています。これは製品の生産量が増加したためと考えます。製品 1 本当たりの電気使用量に換算すると 76 期比は 10.9%の削減となっています。来期は新棟 (3 号棟) の生産ラインが稼働し始めるため電気量の削減は厳しい状況ですが、省エネルギー推進委員会を通じて省エネ対策を行い、削減に努めていきます。

都市ガス使用量は前期よりも減少しています。冷温水発生器の運転調整やボイラーの蒸気漏れを改善したことがガス使用量の削減に繋がったと考えます。製品1本当たりの使用量で換算すると76期比は33.3%削減となっています。80期も引き続きガス使用量の削減に努めていきます。ガソリン使用量は前期より増加しています。管理課の外出業務(3号棟関連やCSR活動等)が多くなり使用量が多くなったと考えられます。製品1本当たりの使用量は76期比61.9%削減となっています。

二酸化炭素排出量は前期より増加となっています。製品の生産量が増加したためと考えます。製品 1 本当たりの排出量に換算すると 76 期比 25.7%削減となっています。引き続き電気、ガス、ガソリン使用量の低減に努めていきます。

	廃棄汚泥量削減 (kg)	606,320	779,870	660,790	(576,004)	(719,720)
	(原単位 : kg)	6.791×10^{-3}	_	_	6.452×10^{-3}	_
	(基準年比)	_	+19.8%	▲2.2%	▲ 5%	▲1.0%
2	廃棄 プラスチッ ク量削減(kg)	100,204	133,019	123,255	(95,194)	(138,530)
	(原単位 : kg)	1.122×10 ⁻³	_	_	1.066×10 ⁻³	_
	(基準年比)	_	+23.6%	+10.4%	▲ 5%	+15.3%

汚泥排出量は前期より増加しています。 今期の廃棄バルクが前期より増えたことが要因と考えます。 製品の生産量が増加しているため製 品1本当たりに換算すると1.0%削減となります。来期は廃棄バルクの更なる低減に努めていきます。 廃プラスチック類排出量は前期より増加しています。 今期はプラスチック箱に梱包された海外製チューブの増加が要因と考えます。 製品 1 本当たりに換算すると、基準となる 76 期比 15.3%増加となっています。来期は更なる削減活動を実施していきます。 下水道排水削 48,221 46,392 47,114 (45,810)(46,898)減 (m3) (原単位: m3) 5.401×10^{-4} 5.131×10^{-4} 3 (基準年比) **▲** 12.3% **▲** 10.4% **▲**5% **▲**18.9% 前期より下水道排出量が減少しています。効率的な生産を行い、製品1本当たりに換算すると、基準となる76期より18.9%削減となっ ています。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる下水道排水量の低減を図ります。 化学物質の管 F: 11,730 F: 13,712 F: 16,693 F: 17,699 対象物質の 理:PRTR制度 POE:0POE:0POE:0POE:0在庫管理 NaDS: 62,670 NaDS: 76,757 NaDS: 73,797 対象物質 (kg) NaDS: 68,738 F: +16.9% F: +42.3% F: +50.9% (基準年比) 4 PEO: $\pm 0\%$ PEO: $\pm 0\%$ PEO: $\pm 0\%$ NaDS: +9.7% NaDS: +22.5% NaDS: +17.8% フッ化水素及びその水溶性塩(F)については前期比6.0%、基準となる76期比50.9%増加しています。ドデシル硫酸ナトリウム(NaDS) については前期比3.9%削減、76期比17.8%増加しています。生産量の増加、特にフッ素入り歯磨剤が増えたことが要因と考えます。ポ リオキシエーテル (POE) は今期も使用していません。これからも PRTP 法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。 コピー用紙使用 897,500 890,000 897,500 807,750 755,000 量削減(枚) (基準年比) ▲0.8% ± 0 **▲**10% **▲**15.9% コピー用紙使用量は、前期比、基準となる76期比ともに15.9削減となっています。今期は会議体のペーパーレス化、プリンターの両面 機能の活用を積極的に行ったためと考えます。来期もペーパーレスの推進活動に努めたいと思います。 グリーン購入率 16.0 16.2 9.7 16.8 13.9 アップ (%) (基準年比) +1.3%+5%▲39.4% **▲**13.1% 6 前期と比較し43.3%増加となっています。グリーン購入の推進活動を行った結果と考えます。前期は新規プリンターとグリーン購入品と の相性が悪く、グリーン購入品を減らしたことにより、前期は9.7%と購入率が減少致しました。今期はプリンターに適したグリーン購 入品を使用したため購入率は増加致しましたが、購入するまでの検討期間もあり、基準となる76期と比較すると13.1%減となっていま す。来期も購入率が増えるように啓蒙を強化していきたいと思います。 製品開発におい 77~78期で合計 77~79 期で合計 77~79期で合計 て環境に配慮し 1 件実施 2件実施した 3件実施する 3件実施した た施策を行う 7 環境に配慮した商品を今期は1件提案し、商品化しました。今期発売品で過剰包装を避けるために個箱を廃止し、紙資源の節約に努めま した。前々期は製品の全体シュリンクから帯シュリンク包装への変更を提案し、前期はボトル仕様先口液の詰め替え用を商品化致しまし た。製品開発において環境に配慮した施策を77期~79期で3件実施致しました。来期も引き続き、色々な方面から環境に配慮した製品 造りを進めたいと思います。

※CO2 排出量係数:電気・0.000474t/kWh (調整後)、ガス・0.00221t/m3、ガソリン・0.00232t/L

6. 3 大阪営業所 (79期)

	項目	76 期 (基準年度) 実績値	77 期 実績値	78 期 実績値	79 期 (中期目標) 目標値	79 期 実績値	
	CO2 排出量 削減(t)	3.3	3.1	3.2	3.1~3.5	3.1	
	(基準年比)	_	▲ 5.8%	▲3.9%	95~105%	▲6.4%	
1	電力使用量 削減(kWh)	6,687	6,296	6,427	6,353~7,021	6,263	
	(基準年比)	_	▲ 5.8%	▲3.9%	95~105%	▲6.4%	
	今期活動において、	電気使用量の削減を徹底	こしました。その結果、	目標を達成しました。引	き続き、安定的な削減	に努めていきます。	
	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減(kg)	371	392	434	360	252	
2	(基準年比)	_	+5.7%	+14.5%	▲ 3%	▲32.1%	
	ゴミの分別、削減に努めた結果、76期と比較すると処分量は減少しました。大阪営業所の人員の減少が大きく起因していると考えられます。今後は現状維持に努めていきます。						
	コピー用紙使用 量削減(枚)	18,833	19,239	14,795	18,268	6,906	
3	(基準年比)	_	+21.6%	▲ 21.4%	▲ 3%	▲ 63.3%	
	基準となる 76 期と比較するとコピー用紙の使用量は63%減少しました。これは、PDF 化など用紙の削減を推進した結果だと考えています。また、営業所の人数が1名減ったことも要因と考えられます。						
	グリーン購入率 アップ (%)	35.2	35.3	23.8	31.7~38.7%	19.9	
4	(基準年比)	_	±0	▲33.0%	90~110%	▲ 15.3%	
	基準となる 76 期と比較し、グリーン製品の購入率が 15.3%減少しました。これについては全体の物品購入量も著しく減少しているためと考えられます。引き続き、購入率の増加を目指します。						

※CO2 排出量係数:電気・0.000496t/kWh (調整後)

6. 4 新生富山事業所(79期)

	項目	76 期 (基準年度) 実績値	77 期 実績値	78 期 実績値	79 期 (中期目標) 目標値	79 期 実績値		
	CO2 排出量の把 握(t)	1	_	1	毎月、CO2 排出量 を測定	478.6		
	電力使用量の把 握(kWh)	_	_	_	毎月、電力使用量 を測定	517,686		
	LPG 使用量の把 握(m3)	-	-	-	毎月、LPG 使用量 を測定	22,944		
1	ガソリン使用量 の把握(L)	-	-	-	毎月、ガソリン使 用量を測定	1,106		
	A 重油使用量の 把握(L)	-	_	-	毎月、A 重油使用 量を測定	1,000		
	つ、社内の節電意識のガソリン使用量は1,	今期3月より新生富山事業所が本格的に稼働しデータとしては(増築前後を含め) 1年分となります。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量・プロパンガス・二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。 ガソリン使用量は1,106Lで前期の実績には挙げておりませんが、前期比10.0%削減となっています。 エコドライブを推進してガソリン使用量の削減に努めていきます。 重油使用量は1,000Lとなっておりますが、増改築棟を含めた新生富山事業所では今後使用予定はございません。						
2	廃プラスチック 類の量の把握 (kg)	-	_	-	毎月、廃プラスチ ック類の量を測 定	4		
	廃プラスチック類排出量はごく少量でしたが、増改築棟の本格稼働で増える可能性もありますが、今後の排出量の推移を見守りたいと考えています。							
0	上水使用量の把 握(m3)	-	_	-	毎月、上水使用量 を測定	1,202		
3	今期3月より新生富山事業所が本格的に稼働しデータとしては(増改築前後を含め)1年分となります。今後、現状を把握しつつ、社内の節水意識の向上や対策を行い、上水使用量の低減を図ります。							
4	化学物質使用量 の把握:PRTR 制度対象物質 (kg)	-	_	-	毎月、化学物質 (PRTR 制度対 象物質)の使用量 を測定	53		
		ドデシル硫酸ナトリウムにつきましては複数の特定の製品にしか使用しておりませんので、急激に増減はしないと考えております。これからもPRTP 法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。						
	コピー用紙使用 量の把握(枚)	_	_	_	毎月、コピー用紙 使用量を測定	43,500		
5	コピー用紙使用量は、実績には挙げておりませんが前期比3.3%減少となっています。今後は印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・ 集約等の機能活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたいと思います。							

※CO2 排出量係数:電気・0.000624t/kWh(調整後)、LPG・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L、A 重油・0.00271t/L

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 80期

7. 1 本社 (80期)

	1 本江 (00 朔)						
	項目	78期(基準年度) 実績値	80 期(来期) 目標値	82 期(中期目標) 目標値			
	CO2 排出量の維持(t)	14.85	14.85	14.85			
	(基準年比)	_	±0	±0			
	電力使用量の維持(kWh)	27,980	27,980	27,980			
1	(基準年比)	_	±0	±0			
1	・不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する ・使っていない電気機器の電源オフを実施する ・周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める ・NO残業ディの徹底(最終消灯 19:00 厳守) ・室温管理(冷房 26℃ 暖房 20℃)						
	一般廃棄物の最終処分廃棄物量削減(kg)	4,241	4,029	4,156			
	(基準年比)	_	▲ 5%	▲ 2%			
	一般廃棄物の再資源廃棄物量削減(kg)	1,112	1,056	1,090			
	(基準年比)	_	▲ 5%	▲ 2%			
2	・排出量の現状把握と管理 ・使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ・ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める一促進 POP ・ゴミ削減 (eco)の意識の徹底の為の施策を実施 ・据え付け紙コップ使用を最小限に留める。/マイボトル、マイ水筒等を使用する ・仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース						
	コピー用紙使用量削減(枚)	239,000	227,050	234,220			
	(基準年比)	_	▲ 5%	▲ 2%			
3	・使用量の現状把握と管理と、周知の徹底・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める・両面、集約等の機能を有効活用・印刷した印刷物を必ず回収する						
	CSR活動の実施	_	提案3件、実施3件	提案1件、実施1件			
4	・自社発信の活動への参加を検討する ・野村ビル全体での活動、新宿区、周 辺地区における CSR 活動への参加も検討する						

※CO2 排出量係数:電気・0.000455t/kWh(調整後)、ガソリン・0.00232t/L

7. 2 相模原事業所 (80期)

	項目	78 期(基準年度) 実績値	80 期(来期) 目標値	82 期(中期目標) 目標値
	CO2 排出量削減(t)	2,885	(2,885)	(2,885)
	(基準年比)	_	▲2%	▲ 5%
	(原単位:t)	2.806×10 ⁻⁵	2.750×10 ⁻⁵	2.666×10 ⁻⁵
	電力使用量の現状維持、原単位の削減(kWh)	5,006,909	(5,006,909)	(5,006,909)
	(基準年比)	_	▲2%	▲ 5%
	(原単位:kWh)	4.869×10 ⁻²	4.772×10 ⁻²	4.626×10 ⁻²
	ガス使用量の現状維持、原単位の削減 (m3)	271,886	(271,886)	(271,886)
	(基準年比)	_	▲ 2%	▲ 5%
1	(原単位:m3)	2.644×10 ⁻³	2.591×10 ⁻³	2.512×10 ⁻³
1	ガソリン使用量の現状維持、原単位の削減(L)	383	(383)	(383)
	(基準年比)	_	▲ 2%	▲ 5%
	(原単位 : L)	3.724×10 ⁻⁶	3.650×10 ⁻⁶	3.538×10 ⁻⁶
	軽油使用量の現状維持、原単位の削減(L)	_	使用量の測定	80 期を基準年とし現状維持

- ・共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季20℃)
- ・不在時の消灯実施
- ・空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄
- ・コンプレッサーのエアー漏れ箇所の改善
- 社有車のアイドリングストップ

	汚泥(充填不良、廃バルク)の削減(kg)	660,790	647,574	627,750
	(基準年比)	_	▲2%	▲ 5%
	(原単位:kg)	6.426×10 ⁻³	6.298×10 ⁻³	6.105×10 ⁻³
	廃プラスチック類の削減(kg)	123,255	120,790	117,092
9	(基準年比)	_	▲2%	▲ 5%
4	(原単位:kg)	1.199×10 ⁻³	1.175×10 ⁻³	1.139×10 ⁻³

・残バルクの削減 (汚泥削減)・ロットアウトの低減・改善 (汚泥削減)

・再資源化の検討 (廃プラスチック削減)
 ・不用品廃棄・削減 (廃プラスチック削減)
 ・廃プラスチック類のコンパクト化 (廃プラスチック削減)

	下水道排水の削減(m3)	47,114	46,172	44,758		
	(基準年比)	_	▲2%	▲ 5%		
3	(原単位 : m3)	4.582×10 ⁻⁴	4490×10 ⁻⁴	4.353×10 ⁻⁴		
	・効率生産による洗浄回数の改善・節水の実施					
	化学物質の現状維持: PRTR制度対象物質(kg)	F: 16,693 POE: 0 NaDS: 76,757	F: 16,693 POE: 0 NaDS: 76,757	F: 16,693 POE: 0 NaDS: 76,757		
4	(基準年比)	_	±0	±0		
	・現状の把握と管理・バルクロットアウトの低減・改善					
	コピー用紙の削減(枚)	897,500	852,625	807,750		
	(基準年比)	_	▲ 5%	▲10%		
5	・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ・両面・集約等の機能を活用 ・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)					
6	生物多様性保全活動	_	地域活動「柴胡の会」 に参加 ミシマサイコの苗の 育成	相模事業所の敷地で 絶滅危惧所ミシマサ イコの育成・栽培、 啓発の実施		
	・地域の活動に参加 ・相模原事業所の敷地内に絶滅危惧所ミシマサイコを育成・栽培 ・従業員への啓発					
	製品開発において環境に配慮した施策を行う	_	80 期 1 件実施	80~82 期で 合計 3 件実施		
7	・環境に配慮した製品の開発を行う ・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ・環境に配慮した製品仕様を検討する ・SDGs に関する勉強会に参加する					

※CO2 排出量係数:電気・0.000455t/kWh (調整後)、ガス・0.00223t/Nm3、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258 t/L
 ※80 期も増産が見込まれるため、CO2 排出量、エネルギー使用量、廃棄物量、排水量の削減は、原単位(製品 1 本当たりに換算)で評価しました。(基準年比)は、原単位があるものは原単位で、原単位がないものは実測値で比較しています。
 ※化学物質の管理/ F:フッ素関連、POE:ポリオキシエーテル、NaDS:ドデシル硫酸ナトリウム

7. 3 大阪営業所 (80期)

	項目	78 期(基準年度) 実績値	80 期(来期) 目標値	82 期(中期目標) 目標値
	CO2 排出量削減(t)	2.147	2.039~2.254	2.039~2.254
	(基準年比)	_	95~105%	95~105%
	電力使用量削減(kWh)	6,427	6,106~6,748	6,106~6,748
1	(基準年比)	_	95~105%	95~105%
	・不在時と休憩時間の消灯実施 ・使っていない電気機器の電源オフ実施 ・夏季冬季のエアコン設定温度管理			
	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減(kg)	434	412~434	412~434
	(基準年比)	_	95~100%	95~100%
2	・排出量の現状と把握 ・使用済み封筒等再利用徹底 ・印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ・ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底			
	コピー用紙使用量削減(枚)	14,795	14,351	13,315
	(基準年比)	_	▲10%	▲3%
3	・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ・両面・集約等の機能を活用 ・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等) ・電子ファイル化推進			
	環境に配慮した製品の開発	_	80 期 1 品目実施	80~82 期で 合計 3 品目実施
4	・環境に配慮した製品の開発を行う ・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ・環境に配慮した製品仕様を検討する			

※CO2 排出量係数:電気・0.000334t/kWh (調整後)

7. 4 新生富山事業所 (80 期)

<u>'.</u>	4 利生品山争来灯(80 规)						
	項目	79期(基準年度) 実績値	80 期(来期) 目標値	82 期(中期目標) 目標値			
	CO2 排出量の把握(t)	-	毎月、CO2排出量を 測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
	電力使用量の把握(kWh)	-	毎月、電力使用量を 測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
1	LPG 使用量の把握(m3)	-	毎月、LPG 使用量を 測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
1	ガソリン使用量の把握(L)	1,106	1,083	1,073			
	(基準年比)	_	▲2%	▲ 3%			
	・不在時と休憩時間の消灯実施 ・使っていない電気機器の電源オフ実施 ・夏季冬季のエアコン設定温度管理 ・社有車のアイドリングストップ						
2	廃プラスチック類の量の把握(kg)	_	毎月、廃プラスチッ ク類の量を測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
	・再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する						
3	上水使用量の把握 (m3)	-	毎月、上水使用量を 測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
	・節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し、記録する						
4	下水道排水量の把握(m3)	-	毎月、下水道排水量 を測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
	・節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し、記録する						
5	化学物質使用量の把握:PRTR制度対象物質(kg)	_	毎月、化学物質 (PRTR 制度対象物 質)の使用量を測定	80 期を基準年とし、 80 期比 95%~100%			
	・PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、	記録する					
	コピー用紙の削減 (枚)	43,500	42,200	39,200			
	(基準年比)	_	▲ 3%	▲ 10%			
6	・ 日帰物を作成する場合は、 必要最低限の部数に留める ・ 両面・ 集約等の機能を活用 ・ ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)						
7	周辺地域のゴミ拾い活動	-	毎月、周辺地域のゴ ミ拾い活動をする	活動の開始及び継続			
	・毎月、周辺地域のゴミ拾い活動をする						

※CO2 排出量係数:電気・0.000527t/kWh (調整後)、LGP・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

79期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。また、本社、相模原事業所、大阪営業所では、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの苦情及び訴訟は有りませんでした。

新生富山事業所では増改築工事中、近隣住民の方から、工事車両が不適切な場所に停車しているため移動するよう、ご指摘を頂きました。ご指摘を受けまして、直ぐに建設会社に工事車両の移動と工事関係者への注意喚起を依頼しました。

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪 営業所	新生富山 事業所	遵守 評価
省工ネ法	~	✓	~	~	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	~	遵守
消防法	✓	✓	✓	~	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	~	~	_	_	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	_	~	_	_	遵守
フロン排出抑制法	_	~	_	~	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に 関する条例	_	~	_	_	遵守
大気汚染防止法	_	~	_	~	遵守
水質汚濁防止法	_	~	_	_	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	_	~	_	_	遵守
下水道法	_	~	_	_	遵守
相模原市下水道条例	_	~	_	_	遵守
下水道法(上市町下水道条例)	_		_	~	遵守
悪臭防止法	_	~	_	~	遵守
騒音規制法	_	-	_	~	遵守
相模原市条例;悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制 する地域等について	_	~	_	_	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善 の促進に関する法律(化管法)	_	~	_	~	遵守
工場立地法	_	~	_	~	遵守
相模原市地域準則条例	_	~	_	_	遵守
労働安全衛生法	_	~	_	~	遵守

9. その他の活動

9. 1 相模原事業所3号棟建設 及び 新生富山事業所増改築

<相模原事業所>

2019 年 3 月 1 日(木)に地鎮祭を行い、その後増築工事を進めていました 3 号棟が無事完成しました。竣工式は 2020 年 4 月 13 日(月)に執り行いました。新型コロナウイルス感染症の問題がありましたので、直会は中止し、少人数で安全祈願の神事のみを行いました。



相模原事業所3号棟竣工式

相模原事業所3号棟

<新生富山事業所>

2019 年 3 月 28 日 (木) に地鎮祭を行い、その後増改築工事を進めていました新生富山事業所が無事完成しました。竣工式は 2020 年 3 月 10 日 (火) に執り行いました。新型コロナウイルス感染症の問題がありましたので、直会は中止し、少人数で安全祈願の神事のみを行いました。



新生富山事業所竣工式



新生富山事業所

9. 2 SDGs 推進

経営における課題とチャンスを踏まえ、当社でも SDGs を推進することとなりました。

従業員には順次「SDGs バッジ」を配布しています。また研究

開発部門では、2019年8月から「SDGs 新事業プロジェクト研究」に参画しており、当社の事業については「月刊事業構想」の7月号に掲載されました。

来期はより一層、SDGs 活動を推進する予定です。





9.3 緊急事態への準備及び対応

<避難訓練 (本社)>

79 期は、2019 年 10 月 29 日(火)及び 2020 年 3 月 17 日(火)に、新宿野村ビルの管理会社主導で、避難訓練を行いました。今後も 1 年に春と秋の 2 回、避難訓練を行なう予定です。





本社 避難訓練の様子

<避難訓練 (相模原事業所)>

79 期は、2019年8月9日(金)の夕方(日勤者対象)と夜(夜勤者対象)に、火災発生を想定した避難訓練を行いました。





相模原 日勤 避難訓練の様子





相模原 夜勤 避難訓練の様子

<屋外タンク漏洩時対応訓練 (相模原事業所) >

79期は、2020年5月8日(金)に、屋外タンク(グリセリンタンク、ソルビットタンク)からの漏洩時対応訓練を行いました。 来期は屋外タンクが追加されますので、新しいタンクについても漏洩時対応訓練を行う予定です。

<消火栓・消火器訓練 (相模原事業所)>

79 期は、2019年11月16日(水)に、消火栓・消火器訓練を行いました。





相模原 消火栓・消火器訓練の様子

<避難訓練 (大阪営業所) >

79 期は、2019 年 6 月 14 日 (金)、消火器の取り扱い方の確認、防災グッズの確認を行いました。

今後も1年に1回、避難訓練を行なう予定です。

<避難訓練 (新生富山事業所) >

79 期は、工場増改築工事が行われていたため、避難訓練は行いませんでした。竣工 後直ぐに行う予定でしたが、コロナ禍により延期が続いています。来期はコロナ禍の 状況をみつつ、秋頃に避難訓練を行う予定です。



大阪営業所 避難訓練の様子

9. 4 エコアクション 21 研修

2019年6月13日(木)、新生富山事業所にて、休職者を除く全業員に対し、2回に分けて「エコアクション21」に関する

講義研修を行いました。来期も新入社員を対象に講義研修 を行う予定です。

講習内容:エコアクション21 と当社の活動について

参加者数:新生富山事業所17名

講師:江尻茂之



新生富山事業所 エコアクション 21 研修の様子

9.5 社内の安全衛生と健康経営活動

<安全衛生活動 (相模原事業所) >

2019年12月27日(金)に、トヨタエルアンドエフ神奈川株式会社様に来社頂き、フォークリフトに関する安全講習会を実施しました。講習は講義と実地の2段階で行われました。講義はフォークリフト作業員の他、フォークリフトの危険性を鑑みまして、フォークリフトに近づく可能性のある部署の従業員も参加しました。

講習内容:フォークリフトの安全講習

参加者数:工場作業者33名

講師: トヨタエルアンドエフ神奈川株式会社 様







実地講習の様子

<健康経営活動 (相模原事業所)>

2020年1月6日(月)に、健康経営活動の一環として工場作業者を対象にした健康に関する出張講座を、相模原市健康増進課のご協力のもと実施しました。80期以降も定期的な開催を検討しています。

講座内容:「生活習慣病予防」:正しい食生活と快適な睡眠等

参加者数:工場作業者121名 講座主催者:相模原市健康増進課

講師:相模原市健康福祉局保健所保健師様



講座の様子

<献血 (相模原事業所)>

相模原事業所では毎年「神奈川県赤十字血液センター」の献血に協力しています。79 期は2019 年 12 月 3 日(火)、相模原事業所正面に献血車をとめてもらい献血を行いました。今回は従業員41 名のご協力を頂きました。





献血の様子

9. 6 社会貢献活動

<ゴミ拾い活動 (相模原事業所) >

相模原事業所では、2016 年から事業所近隣歩道でのゴミ拾い活動を行っています。79 期は4回 (12/16、1/20、2/27、3/16) のゴミ拾い活動を行ないました。





12月16日のごみ拾い活動の様子

<生徒、学生の工場見学 (相模原事業所) >

2019 年 8 月 20 日 (火) に、相模原市の小学生 25 名を招き、また 2019 年 10 月 30 日 (水) には、相模原市の養護学校高校生) 13 名を招き、今後の学校及び社会生活の一助になることを目的として、工場見学を催しました。





小学生を招いた講義と工場見学の様子





養護学校高校生を招いた講義と工場見学の様子

<使用済み切手の回収活動 (相模原事業所) >

79期から相模原事業所では、使用済み切手の回収を始めました。収集した切手は、「公益財団法人ジョイセフ」にお送りしています。

寄付金は開発途上国で推進する妊産婦と女性の命と健康を守る活動のための資金の一部として活用されます。9月と10月に回収を行い、合計440gが集まりました。今後他の事業所にも水平展開したいと考えています。

<食品ロス、ごみ削減活動 (相模原事業所)>

79 期から相模原事業所では、食品ロス、ごみ削減活動を行っています。夏休み前の納

涼会・年末年始休み前の納会・年明け の新年会で計画し実施しました。

例年45L ビニール袋10枚分以上の ゴミが生じていましたが、79 期は各 イベントで1/10以下の量に減らすこ とができました。



夏の納涼会で生じたごみ全量



収集した使用済み切手

<アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動 (相模原事業所)>

2018年よりアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加をしていま

す。この活動は回収したアルミ空き缶を再資源化し、そこで得た売却益を「国連WFP協会(国連世界食糧計画)」に寄付し、世界の学校給食を支援するものです。目安としてアルミ空き缶45個で、発展途上国の小学生の子供に1回分の給食を提供できるそうです。

また「NPO 法人アルミ缶でボランティア」では、ペットボトルキャップの売却益を「認定 NPO 法人世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付する活動も行っています。目安としてペットボトルキャップ 2kg(約860個)でポリオワクチン1人分を提供できるそうです。

9月にアルミ空き缶 1,080 個 (18kg) とペットボトルキャップ 8,170 個 (19kg) を「NPO 法人アルミ缶でボランティア」に引き渡し、ゴミの再資源化と発展途上国の子供たちへのボランティア活動に協力しました。



収集したアルミ缶

素材	引き渡し量	提供物の目安	提供物
アルミ空き缶	1,080 個(18kg)	アルミ空き缶45個で子供1人の1日分の給食	1日の給食36.1人分
ペットボトルキャップ	8,170 個(19kg)	ペットボトルキャップ 2kg (約860個) でポリ オワクチン1人分	ワクチン 4.8 人分

9.7 生物多様性の保全活動

<絶滅危惧植物の保護活動 (相模原事業所)>

79期から、絶滅危惧種であるミシマサイコ(薬草)の育成・栽培を始めました。「相模原柴胡の会」に参画し、相模原事業所の敷地内で育成・栽培を行っています。

(https://main-townguide.ssl-lolipop.jp/saiko/index.html)

【ミシマサイコ】

科名: セリ科、和名: 三島柴胡(生薬名・柴胡)。

本州、四国、九州の日当たりの良い山野に自生する多年草。

【相模原におけるミシマサイコ】

相模原市域には古来より相模野台地といわれる広大な原野があり、そこには自生の ミシマサイコ群生地「柴胡が原」が存在しました。夏には一面に黄色い花が咲き、秋 には貴重な薬草(根が漢方生薬・柴胡の原料)として採取されていました。

1900 年代から都市化が始まり、1950 年代には都市化・工業用地化の進行で自然環境が激変してしまいました。相模原市内で最後に自生のミシマサイコが見られたのは1955 年頃といわれています。

「相模原柴胡の会」は、このミシマサイコを、生物多様性に関する法を遵守しなが ら育成・栽培して、啓発普及を図るとともに、相模原市の環境保全とイメージアップ にも寄与することを目的とする団体です。





(上) ミシマサイコの種

(下) ミシマサイコの花

【相模原事業所での活動内容】

- ・「相模原柴胡の会」への参加
- ・ミシマサイコ群生地の一つであった大山工業団地(当社相模原事業所敷地内)での育成・栽培





相模原事業所での栽培の様子

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

<全体の評価>

今期後半からは、新型コロナウイルスの世界的な流行に伴い、一部の原料やユニフォームのひとつであるマスクの入手困難などが発生した。可能な従業員についてはリモートワークや時差出勤を、定時出社が必要な従業員については徹底した消毒と、可能な限りのソーシャルディスタンスを実施し対応した。

そんな中で当社では、一人の感染者も出さず、また生産も止めることなく期末を迎えられたことに安堵 している。

相模原事業所では生産数量が年々増加しており、それに伴って電力使用量が増え、二酸化炭素排出量の増加を招いた。しかしながら、製品 1 本当たりの原単位で比較すると、基準年度にあたる 76 期比で大きな削減が得られた。エネルギー面で効率的な生産が成されていることを評価したい。

一方で、汚泥排出量も増加している。原単位で比較すると、基準年比では削減されているものの、その 削減率は小さく、課題と考える。

本社従業員はリモートワークを導入したが、毎日一定人数の出社があったため、照明電力量削減には繋がらなかった。むしろ、時差出勤も導入したため、昼食時などの一斉消灯も行えなかった。そんな中で本社の総電力使用量の削減を実現できたことは評価したい。

一方で、本社ではエネルギー使用量の削減や廃棄物の削減には限界があるため、切り口を変えた新しい 取り組みが必要と考えている。

大阪営業所については減員に伴い、エネルギー使用量には大きな変化が無いものの、廃棄物やコピー用紙の使用量が削減された。大阪営業所においても、エネルギー使用量の削減や廃棄物の削減には限界があるため、新しい取り組みが必要と考えている。

新しく加わった新生富山事業所については、環境への負荷や法令順守状況など、現状の把握を中心に活動を行った。しかしながら 80 期から本格稼働する新工場での環境負荷がどの程度になるのかは、改めて把握し直す必要があると考える。

<見直し・指示>

新しい期を迎えるにあたり、相模原事業所には廃棄汚泥に繋がる、廃棄バルクや原料の削減を、本社と 大阪事業所には新しい取り組みを、新生富山事業所には、新しい工場における環境負荷をしっかりと把握 するよう指示した。

当社が持続的競争優位を獲得するためには、近年の VUCA な市場環境を俯瞰した上で、リスクを充分に分析し、それを回避する施策を総合的に行っていく必要があるだろう。

近年、SDGs の重要性が言われており、より一層環境への配慮の重要度が増している。当社でも 80 期から SDGs にかかわる活動に、より一層力を入れることを予定している。

社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築をしながら、それと同時に企業価値を高めることを、SDGs を通して進めていきたい。

そのためには、「エコアクション 21 推進委員会」と、新たに設置した、特定事業者としての活動を行なう「省エネルギー推進委員会」とが協力し合いながら並走し、より一層従業員に省エネルギーや環境への配慮の必要性を浸透させることを期待している。

2020年 7月 3日 代表取締役社長 神保 貞夫